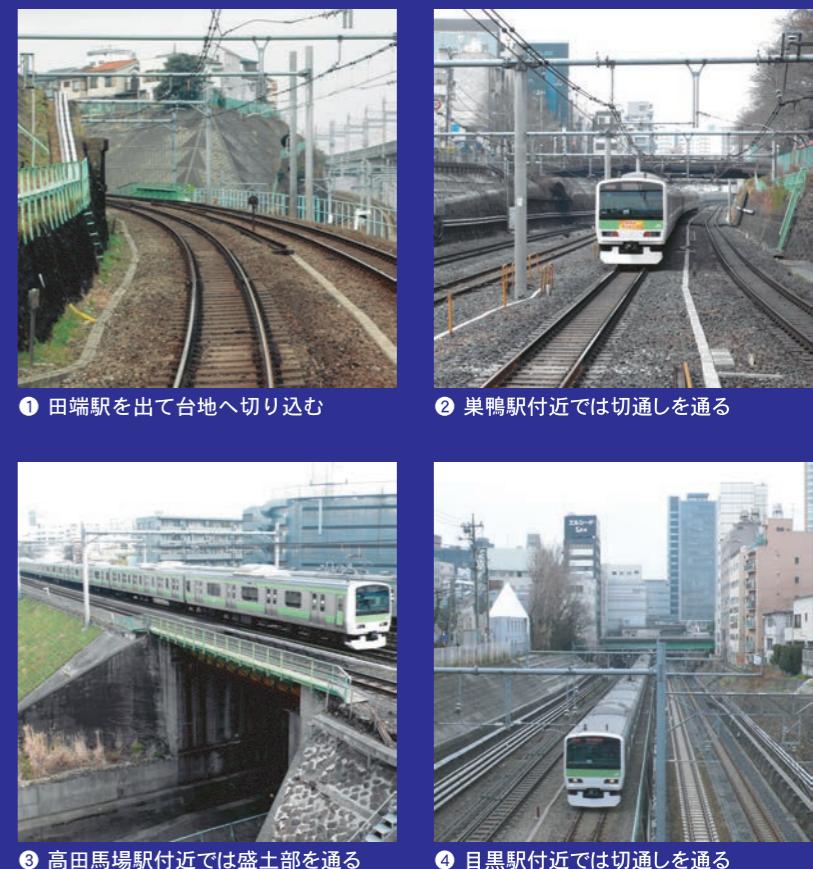
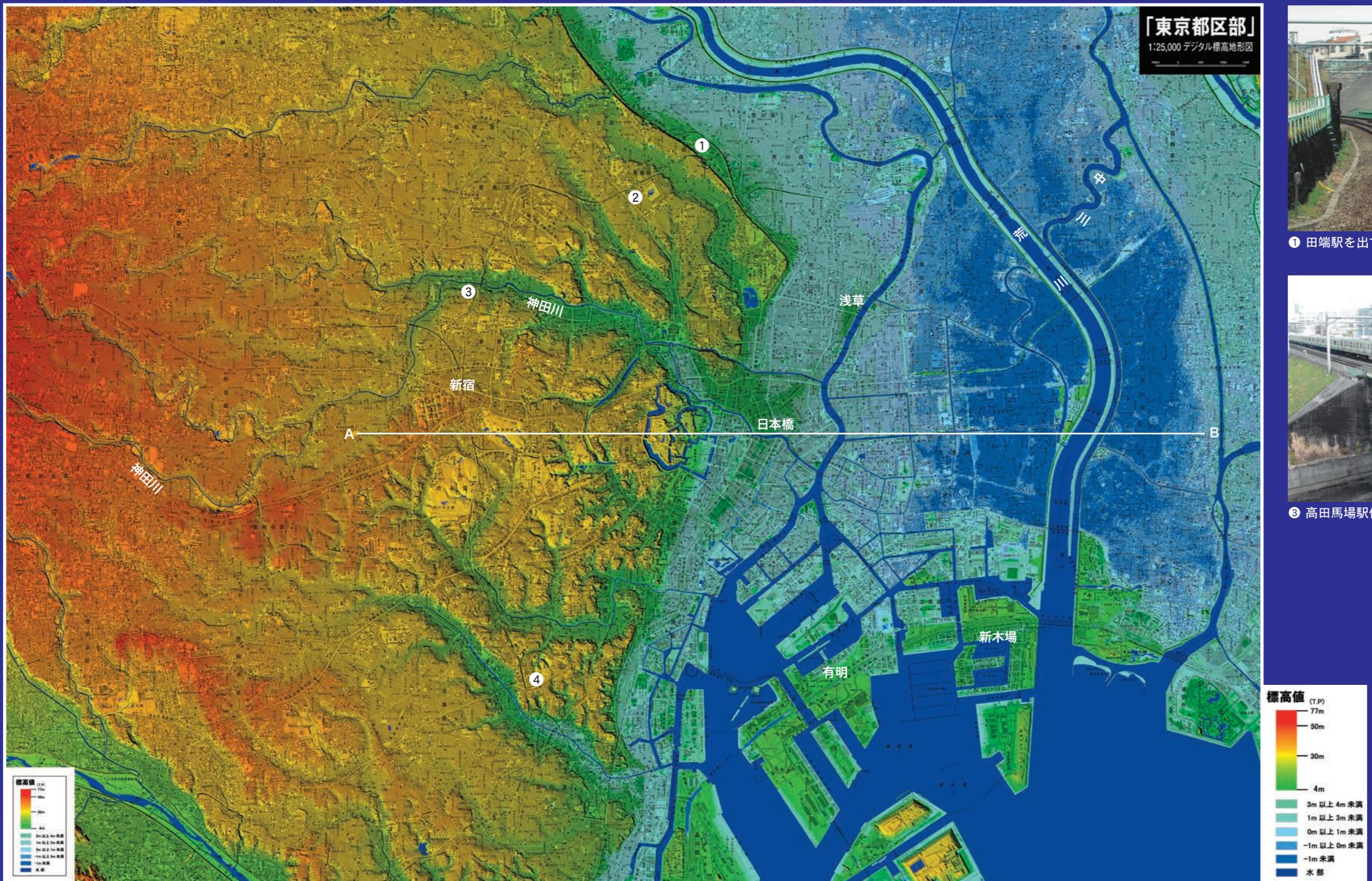


1. デジタル標高地形図「東京都区部」の全体です 1:100,000に縮小



山の手と下町

図の中央部を環状に走る山手線を田端駅①から左回りにたどると、台地に分け入り、台地上の巣鴨駅②を切通し(※)で抜け、神田川の谷③は盛り土で越え、目黒駅④も台地上にあり、山の手は谷の刻まれた台地であることがよく分かります。江戸城とその城下町が建設された時には、台地上は武家屋敷と神社や寺院、低地は職人や商人の住まいと、はっきり分かれていました。台地上が山の手で低地は下町と、地形と結びついた名前で呼ばれていました。地形的にさまざまな特徴をもった町は、その後、大都市に変貌して行く

A～B断面図(水平距離1:100,000 高さ50倍強調)



中で、周辺部に向けて拡大し、都市機能も複雑になりました。しかし、住宅街・官庁街の山の手と商店や町工場が多く親しみやすい下町という地域性がうかがえる所はまだたくさん残っています。山の手を含む図の西半分に広がっている武蔵野台地は、浅間山や富士山の火山灰が5～15m積もった、周辺よりも高くて平らな地域です。図の西端では、台地の標高は50m前後、新宿付近で40m、台地東端で20mと、西から東に向かってだんだん低くなり、東端は崖で東部低地とつながっています。

日本橋、浅草などの繁華街から東は、中川（旧利根川）や荒川沿いに低地が広がります。荒川両岸にはゼロメートル以下の地域が目立ちますが、工業用水に使う地下水の過剰なくみ上げが主な原因となって起きた地盤沈下によるものです。有明や新木場など河口部には標高4m以上の緑色が目立ちます。1959年の伊勢湾台風において名古屋港周辺では、高潮によって堤防が決壊し、貯木場から流れてきた丸太で家が壊れたり、長い間水が引かないという被害を受けました。これら被害を教訓として、平均満潮位よりも2～3m高い潮位を想定して施工された埋立地です。

※切通し:山や丘などを掘削し、交通を行えるようにした道のことです。